

目 次

- 1頁 日韓女性セミナー報告
- 2、3頁 デートDV防止セミナー報告
- 3頁 国際女性デー報告
- 4頁 WENETよりお知らせ

ひろしまWENETは、女性団体・グループ及び個人が連携し、全市的・横断的にその力を結集して女性問題の解決に向け行動することにより、団体の構成員及び個人のより一層の資質の向上と団体活動の進展を図るとともに、広島市が目指す男女共同参画社会の実現に寄与することを目的としています。この広報紙は会員および一般のみなさまにWENETの活動を知っていただくために発行しています。

日韓女性セミナー（報告）



～韓国・大邱広域市の女性指導者たちと交流しました～

2009年1月20日(火)、広島国際会議場3階研修室において広島市女性団体連絡会議(WENET)主催で「日韓女性セミナー」が開催され、50人の参加がありました。広島市の姉妹友好都市である韓国の大邱(デグ)広域市より、5人の女性指導者たちと通訳の方を迎えて、はじめに信政ちえ子会長の歓迎のあいさつがあり、韓国の女性たちの活躍、女性施策の推進状況などが報告されました。訪問団長の申東鶴さんは、女性専門病院の院長という立場から、韓国の女性医師たちの現状や、女性専門病院の必要性、女性医療のサポートシステムなどを述べられました。

続いて、女性施策や心理学の研究者からの報告もされました。韓国では2005年の民法改正によって戸主制度の廃止がなされ、女性議員の割合を増やすための選挙制度「クオータ制(割り当て制)」が実施されていることから、男女平等は飛躍的に進んでいます。WENETからは西田志都枝副会長から日本の女性施策についての報告もされ、質疑応答も活発に行われ日韓の女性たちのすばらしい交流のひとときとなり、小畠知恵子副会長のあいさつで終了しました。

(報告:広報部 平城智恵子)

デートDV防止セミナー(報告)

平成21年(2009年)2月19日(木)15:00~17:00、広島市女性教育センターにおいて、WENET主催 DV防止セミナー「『デートDV防止教育が今なぜ必要か?』~おとな(教職員)として知っておきたいことを学ぶ~」を開催しました。講師は前回と同様、山口のり子先生(アウェア代表)にお願いしました。

DV防止法も制定され、社会全体への啓発が進められていますが、まだまだ十分理解が進んでいるとは言えません。被害を未然に防ぐ力を若い世代でつけることが重要と考え、今年度は高等学校の教職員を対象に「デートDV防止セミナー」を開催し、市立高校の先生とWENET役員、23名が受講しました。

「デートDV」に関する研修は、昨年も県内の高校3年生を対象に行いました。研修後のアンケート結果によると約10%の学生が「デートDV」の経験があると答えており、デートの相手に暴力をふるったことがある、デート相手から暴力をふるわれたことがある、メールをチェックされたり、性的なことを無理強いされたり、したことがあるなどの回答が寄せられました。

2006年、内閣府が発表した調査では、10歳代から20歳代の時、交際相手から「身体的暴力」「心理的攻撃」「性的強要」のいずれかをされたことがある女性は13.5%、7人に1人の割合です。現在20歳代の女性に限ってみると22.8%に増えます。

講演は、意識チェックから始まりました。DVに対して自分には関係ない、第三者的立場であると思っている参加者が意識チェックを受けると、自分の中にもDVの加害者または被害者の要素が潜んでいることに気づかされました。そこで山口先生の話を、身近な事として聞くことができるようになります。

DVとは気づかず、「力と支配」で相手を自分の思い通りにしようとしている行為に気づくこと、そして気づくには正しく学ぶことが必要です。特に若い時に学んでほしいとの思いから、まず各学校で生徒たちを対象に「デートDV」の研修を行ってくださることを願い高校の先生を対象に開催したセミナーは有意義なものとなりました。

(報告:啓発部 山本紀子)



エネルギーッシュに講演される山口のり子先生



WENET啓発部では、2月15日より21日まで、広島市女性教育センター、「団体・グループ連絡会ふれあいフェスティバル展示会場」において、DV啓発に関する展示も行いました。

「デートDVを知っていますか?」という質問に対し、「はい」は20人、「いいえ」は7人でした。

恋人間の暴力＝デートDV

デートDV ドメスティック・バイオレンス



「力で相手を支配するゆがんだ認識がDVを生む」と強調する山口さん

予言葉や態度から 兆に気付こう

恋人間の暴力「デートDV」(ドメスティック・バイオレンス)が、若者の間で問題になっている。DV加害者の更年支援携わる山口のり子さん(58)は、「殴る・けるの暴力だけではないDVの予兆は、早く気付くことの重要性を訴える。

広島市中区で二月月中旬にあったチートDV防止講演会で、山口さんが上映したビデオ。(右川昌義)

高校生の「彼」が彼女の携帯電話を取り上げる。「おまえ、他の男とメールしているんじゃないだろうな。彼じゃないといふと彼は愛されないと」と相づちを打つ。

DVの自覚は、双方に薄い。

■周囲に見えない

傷やあざが残る身体的暴力(比べ、精神的暴力)

暴力は周囲に見えない。当事者が暴力の存在に気が付かない場合も

多い。罪悪感や被害意

識が薄いことが、より

山口さんによると、
DVは身体的暴力だけを意味しない。外部との連絡を遮断したり、行動を制限したりする

ことや、「精神的暴力」などといった理由

でいつ。『彼女は、彼女が友人に相談する

場面に繋ぐ。携帯電話

を取り上げた理由

を聞かれた。「彼女は、

こう推測した。「私の

こと、心配してくれて

いるからじゃないか

な。友人をきつこ

いに思っている」と

よしと相づちを打つ。

DVの自覚は、双方に

周囲はどう接するか。

山口さんは「根気よく話を聞く。別れるか、別れないか、被害者自身が判断するための手助け役に徹してほしい」と意見を述べた。DVの予兆を感じさせる若いカップルに、

DVの予兆を感じさせる若いカップルに、

止むろしきが、被害

防止活動に取り組む。

山口さんが主催する啓

民団体「チートDV防

止むろしきが、被害

防止活動に取り組む。

山口さんが主催する啓

民団体「チートDV防

止むろしきが、被害

防止活動に取り組む。

山口さんは「根気よく

話を聞く。別れるか、

別れないか、被害者自

身が判断するための手

助け役に徹してほしい

い」と意見を述べた。

ついでに「別れてしまひなさい」

と言ってしまったがちにな

る。別れてしまひなさい

は、禁句だという。あ

くまで自身の判断が重

要。指示に従い別れる

5508。

中国新聞2009年2月24日

山口のり子先生の講演内容
が詳細に取り上げられました
のでぜひ、参考に！

精神的な暴力も
ふくまれるんだね

中国地方でも
もっと研修を実施
したいよね

2009国際女性デーひろしま記念講演＆コンサート（報告）

2009年3月8日(日) 南区民文化センター

国際女性デーは1904年3月8日ニューヨークで女性労働者が婦人参政権を要求してデモを起こしたことから始まっています。今年も同日に、「2009国際女性デーひろしま記念講演・コンサート」が広島市で開催されました。WENETも実行委員会に参加し、展示、講演会・コンサートを盛り上げました。

内容：西原由美さん講演会

「海くん、生きててくれてありがとう」

ハッキー・プラス・アンサンブルによるコンサート
など



講演後に花束を贈られた西原海くんと母親の由美さん

WENETよりお知らせ

1.WENET総会(開催予告)

日 時:2009年5月30日(土) 10:00~13:00
場 所:WEプラザ(広島市女性教育センター) 大会議室
議 事:2008年度事業報告、決算報告
2009年度事業計画(案)、予算(案)
新役員選出

会議後に、会食のひとときをもちます。皆さまご参加下さい。



2.日本女性会議2009「さかい」開催要項ができました

日 時:2009年10月30日(金) 開会式・基調報告・基調講演・シンポジウム・交流会
2009年10月31日(土) 分科会・記念講演・閉会式
場 所:堺市民会館、リーガロイヤルホテル堺、その他市内施設
テー マ:山の動く日きたる ~ジェンダー平等の宇宙(そら)へ~
“山の動く日きたる”は女性の自立と解放をうたつた与謝野晶子の詩です。すべての人が
その個性と能力を輝かせる社会を築くため、晶子を生んだ堺から世界へ、そして宇宙へ
とジェンダー平等を発信していきます。
主 催:日本女性会議2009さかい実行委員会、堺市
後 援:内閣府、厚生労働省、大阪府 他

広島市男女共同参画課に、堺市よりパンフレットやポスターなどが届き次第、WENETの会員の皆様に
情報提供いたします。ふるってご参加ください。

編集後記

日韓女性セミナー後の交流食事会には、多くの方のご
参加をいただき、和やかに終了しました。なかでも韓国の
女性指導者たちが「ヒロシマとテグでネットワークをつくり
ましょう」と語りかけてくださったのに感激しました。「一人
ではなにもできない」。みんなでつながったからこそ韓国
では、戸主制度も廃止できたのですね。これからは、広島
から韓国へ、交流の夢はひろがります。

第27号	2009年3月31日
発行者	広島市女性団体連絡会議 (広島市市民局人権啓発部 男女共同参画課気付)
責任者	信政ちえ子

